

## 第2回 IMA 小委員会議事録

開催日時：2021年9月17日（金）12：30-13：20

開催形態：オンライン会議（Zoom）

参加者：大谷栄治・阿依アヒマディ・井上 徹・榎並正樹・大藤弘明・  
鍵 裕之・佐藤 努・土屋 旬・土屋卓久・富岡尚敬・坂野靖行・宮脇律郎・  
門馬綱一・塚本尚義・小西博己・西山忠男

### 1. 議事録の委員長一任について

学術会議の規定により、本会議の議事録を委員長に一任することにした。

### 2. CM business meeting 報告（坂野）

前回2018年 IMA メルボルン大会で開催された Business meeting 以降の活動の概観。

(1) IMA-CM mail update のメール配信, (2) IMA-CM の website ([www.ima-cm.com](http://www.ima-cm.com)) の update, (3) Type catalogue (CTMS) の update.

Kim Tait が(2)について説明を行った。New Web Page を作成した。Web Page の更新・維持に関する資金が無く困っていたが、IMA を介して資金が提供されることとなった。

Nicolas Meisser が(3)について報告した。CNMNC の協力により type specimen 情報が CM 側に提供される体制が整い、Nicolas Meisser と Jacques Lapaire の献身的な努力により大幅に CTMS が更新された。IMA-CM の web site 上で閲覧可能となっている。今後は sub-sampling のためのガイドライン作成が必要となってくる。

### ●Guest からの報告

(1) the Commission of Ore Mineralogy (COM) ・ (2) Mindat.org 両機関の近況が報告された。(1) COM は活動度が低かったが、最近では Malte Junge が中心となって活動的になってきていることが、(2) Mindat.org はアイダホ大の NSF の資金で運営され、将来 IMA からの協力が得られる予定であることが報告された。

また、Rachel Walcott は「Geocase.eu」(Web 上で閲覧できる世界の博物館ネットワークシステム) のデモを行なった。

### ●Presentation of outline M&M10 (2024) proposal に関すること

Jana Horak (Mineralogical society of GB & NI) が Presentation of outline M&M10 (2024) proposal を説明した。それは2024年にダブリンで開催される EMU とのセットで M&M ハイブリッド会議を行うという提案である。M&M9 に参加中の中国人参加者と Melanie Kaliwoda (ドイツ代表) が M&M10 の hosting に興味がある旨のコメントを行なった。

委員長 Mike Rumsey は以下のように取り纏めた。M&M10 proposal のメ切を 2021 年 11 月とする。M&M ハイブリッド会議開催に関するガイドラインを早急に作成して各国委員に送り、コメントを求める。完成したガイドラインに基づき、新年(2022 年)の初めに提出された proposal に関する投票 (M&M10 (2024)の開催地を決定する投票) を行う。これに対して Melanie Kaliwoda から、可能であれば 2021 年 11 月に proposal に関する投票を行ってほしいとのコメントが出された。

### 3. 国際集会 (Mineralogy and Museum) 代表派遣報告 (宮脇)

8 月 24 日～8 月 26 日にブルガリアのソフィアでハイブリッド開催となった国際会議 Mineralogy and Museum に宮脇氏がオンライン参加 (学術会議代表派遣) した。14 か国の代表が参加し、日本からは他に門馬氏と白勢氏が参加した。

### 4. 学術会議「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYSSD2022) の取組について (大谷)

学術会議において、この取り組みに関する連絡会組織が設置され、佐竹健治会員が地球惑星分野の世話人となった。この連絡会には地球惑星科学委員会の国際関係の分科会・小委員会から 5 名 (佐竹、西、氷見山、大谷、塩川) の委員が参加し、IMA 小委員会から大谷栄治氏が参加。この連絡会において日本としての IYSSD2022 の活動の議論を行う。この連絡会で議論すべき科学全般に関わるテーマを募集中。良いテーマがあれば大谷氏まで連絡をお願いします。

### 5. 国際鉱物学年 2021Lyon の取組 (大谷・大藤)

Year of Mineralogy Committee が設置され、ウェブサイトを立て上げた (<http://timeman.univ-lille.fr/node/225>)。またロゴを作成した。IMA2022Lyon においてシンポジウムを開催する。

### 6. 学術会議の動向—国際委員会の見直し— (西山)

任命拒否問題 (未解決) に端を発した学術会議の行政改革により、国際委員会の活動状況のレビューと委員会設置の見直しが行われることになった。そのための調査票を執行部 (大谷前委員長・西山現委員長・宮脇副委員長・大藤幹事) で作成し、学術会議に提出中。また IMA よりわれわれの IMA 小委員会存続のためのサポートレターを発行していただいた。今後、ヒアリング等を経て、存続の可否が決まる予定。

地球惑星圏分科会のもとに学術試料共有小委員会と学術データ共有小委員会の 2 つの小委員会が設置され、IMA 小委員会から、前者に宮脇律郎、西山忠男、後者に大谷栄治の各氏がこれらの小委員会に委員として参加することになった。

7. 学術の動向誌に「鉱物が語る地球・環境・社会：IMA の取組」が印刷（大谷）

8. その他

・大藤 Councilor 報告

IMA2022Lyon のセッション提案を受け付け中. 9 月末日頃まで. 各コミッションや若手からセッションの提案を依頼したい。

IMA2026 は南京で開催が決定.

IMA に新しいワーキンググループを 3 つ設置する. 1) Nanomineralogy, 2) Biominerals and environmental mineralogy, 3) Big data in mineralogy. 日本からこれらのワーキンググループに参加する若手研究者を推薦することにした.

以上